

で、4月から10月まで見られます。仲ノ池でも数は多くありませんが毎年見られ

ます。その赤さから想像上の赤色の動物、「ショウジョウ」の名がつけられています。

⑧ コシアキトンボ トンボ目トンボ科

腹部の基部のあたりに黄白色のはっきりした色があるのでこの名があります。体長4～4.5cmで、仲ノ池で水面近くを飛び回っているのはほとんどこのトンボ

です。オスは水面近くで縄張りを持つ性質があります。仲ノ池で多くいるトンボです。

⑨ ウスバキトンボ トンボ目トンボ科

夏、水田、池沼、空き地などの上を群飛しているトンボです。黄色～オレンジ色なのでこの名があります。沖縄付近から初夏に本土に飛来し、産卵、成長し、

初夏から初秋に羽化します。絶えず移動しながら生活しており、本土では冬に死滅するといわれています。仲ノ池では盛夏の頃普通に見られます。

⑩ チョウトンボ トンボ目トンボ科

翅の大部分が黒色のトンボで、チョウのように翅をひらひらさせながら飛ぶのでこの名があります。仲ノ池では池の改

修工事以前は多く見られましたが、阪神大震災以後は全くといってよいほど見られなくなり、絶滅したと考えられます。



①ギンヤンマ♀



②オオヤマトンボ♂



③ウチワヤンマ♂



④台湾ウチワヤンマ♀



⑤シオカラトンボ♂



⑤シオカラトンボ♀



⑥オオシオカラトンボ♂



⑥オオシオカラトンボ♀



⑦ショウジョウトンボ♂



⑧コシアキトンボ



⑨ウスバキトンボ



⑩チョウトンボ

以上10種のみをあげましたが、他にも多くのものが見られます。今回はイトトンボの仲間、アカネ類は省略しました。

詳しく知りたい方は新村氏の資料などを参照してください。

IV 仲ノ池とその周辺に見られる野鳥類

仲ノ池では、水域で生活する水鳥を中心とした鳥やまわりの林に生活する陸上の鳥が多く見られます。とりわけ冬期に

は、シベリアなどから飛来する冬鳥のカモ類も目立ちます。これらの野鳥についてその主なものを紹介しましょう。

A. 冬鳥として飛来するカモ類

① ヒドリガモ ガンカモ目ガンカモ科

仲ノ池に一番多く飛来するカモで、毎年10月終わり頃にやってきて翌春の4月初旬頃までこの池で生活しています。マガモより小さくオスの頭の上は黄白色で、頭から首にかけては栗色をしています。メスは全身褐色で目立ちません。くちば

しは雌雄とも青灰色で先が黒くなっています。仲ノ池では20羽から多い時で30羽くらい飛来します。ピューウと口笛に似た声で鳴きます。



② コガモ ガンカモ目ガンカモ科

カモの中で最小なのでこの名があります。オスの頭部は栗褐色で、眼から後方が緑色、体は灰色、長い白色の水平な線があります。また、尻にある黄色斑はよく目立ちます。メスは茶褐色で目立ちませんが、側面にある緑色の翼鏡という部分が輝いて見えます。オスは「ピリッ、ピリッ」と笛を吹くような声、メスは

「クエー、クエー」と鳴きます。仲ノ池には平成18(2006)年ごろから時々姿を現すようになりまし



③ ハシビロガモ ガンカモ目ガンカモ科

雌雄ともヘラ型の大きなくちばしが目立つのでこの名があります。オスのくちばしは黒色、メスは黄褐色です。オスは光沢のある緑色の頭、胸は白、腹から脇は赤褐色で、大きなくちばしとともによく目立ちます。メスは全体に褐色で濃褐色斑があり、他のカモのメスとは区別しやすいです。マガモより少し小型で、遊泳中はくちばしを水面につくほど首を下げ、体全体も低くして泳ぎます。「クエ

ッ、クエッ」と二声続けて鳴きます。仲ノ池には平成2(1990)年ごろまでは、冬期には毎年数羽は訪れていたのですが、改修後途絶え、また昨年あたりから時折「つがい」で訪れるようになりました。



オス



メス

④ マガモ ガンカモ目ガンカモ科

大型のカモで、オスは緑の丸い頭、白い首輪、栗褐色の胸、体は上下とも淡褐色で、遠方からは白っぽく見えます。よく目立ち他のカモと見違えることはありません。しかしメスは全身褐色の地に濃褐色の縦縞があり、他の多くのカモのメスとの区別は難しいです。くちばしは雌雄とも全体が黄色です。太いつぶれたような声で「グエーグエーグエー」と鳴き

ます。狩猟対象のカモで、鴨料理に供せられます。仲ノ池には毎年ではありませんが、時折雌雄で訪れることがあります。



オス



メス

⑤ キンクロハジロ ガンカモ目ガンカモ科

平成20(2008)年にはじめて仲ノ池に現れた潜水採餌性のカモです。マガモより小さい中型のカモで、オスは全身黒色、脇、腹、が白色のツートンカラーが目立つ色彩をしています。頭部は紫色の金属光沢があり、後部に垂れ下がった冠羽を持っています。メスは全体黒褐色で脇は淡色です。普通の水面採餌性のカモ(マガモ・コガモなど)との違いは、水面採

餌ガモは潜らないのに比べ、潜水し、餌も魚などを捕らえます。(水面採餌ガモの餌は基本的には水草などの草食性)今年も一度見かけましたが、1~2日したらどこかに飛び立ちいなくなりました。渡りの途中に寄ったのかもしれませんが。



オス

B. 冬鳥以外に見られる水鳥・水辺の鳥

① カルガモ ガンカモ目ガンカモ科

渡りをせず、年中同じところに棲んでいるカモです。芦屋市内でも芦屋川、宮川、芦屋浜などにも広く見られ、最近では仲ノ池にも多く訪れるようになりました。マガモとほぼ同じ大きさで、雌雄同色なので雌雄の区別は外見からは難しいです。雌雄とも褐色で、脚は橙赤色、顔は白っぽく、白い眉斑と黒褐色の過眼線

は顕著でよく目立ちます。黒いくちばしの先端が黄色なのも特徴です。グエッグエツと押しつぶしたような声を出します。市内でも雛をかえし、育てている姿をよく見かけます。



② カイツブリ カイツブリ目カイツブリ科

カモの仲間ではありませんが、初夏の頃時折訪れる水鳥です。コガモよりずっと小さく水上のみで生活し、丸い体で、尾は見えないほど短く、潜水が得意です。長い間潜り、水底の小魚、エビ、水生昆虫などを捕らえ餌とします。飛ぶときは水面を長距離助走します。「ピッピッピッピッ」と鳴きますが、繁殖期には「キリリリ…」と鳴きます。巣はアシやヒシ等の間に水草や藻を積み上げて作りま

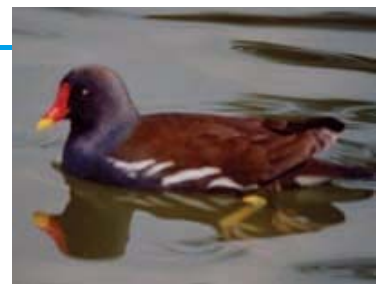
す。巣は池の水位にあわせて浮き沈みするので「におの浮巢」として知られています。仲ノ池でも1980年代には巣が見られたのですが、池の自然の激変によって棲みつかなくなったのです。それでも最近では6月ごろ、夏羽のものが数羽飛来しているのが見られます。



③ バン ツル目クイナ科

仲ノ池には古くからいる鳥で、2回にわたる改修にもめげず再び戻っていました。この数年この池で繁殖している姿も見られます。ハト大の鳥で、全体に黒っぽく見え、額からくちばしにかけての赤が目立ち、先が黄色でなかなかカラフルな鳥です。脚が大きく水鳥なのに、その

脚の指には水かきがないため、泳ぐ姿は前後に首を振ってこっけいなものです。クルルーと一声ずつ大きな声で鳴きます。今年も2羽が常時見られます。



④ カワウ ペリカン目ウ科

全身黒色の大型の水鳥です。体を深く沈めて泳ぐので首だけが長く水面から出

ているような感じですが、潜水は巧みで、長い時間潜れ、かなり大きな魚（コイ、

フナ、ブルーギル、ボラなど)も獲ることができます。仲ノ池にはこの2~3年よく現れるようになりました。この池にいる魚を狙ってくるのでしょう。時折、翼を大きく広げて干している姿を見かけますが、これは他の水鳥は水をはじく脂をだす皮脂腺がよく発達しているのに比べ、ウの仲間は皮脂腺の発達が悪いので、翼をよく乾かさないと水に濡れておぼれるからです。カワウがたくさん来て池の外来魚を多く捕食してく



れるといいのですが…。ちなみに鵜飼に使うのはウミウの方でこの鳥ではありません。



⑤ アオサギ コウノトリ目サギ科

わが国最大のサギで、全長93cm、翼開長160cm、青っぽい灰色で白い首と黒い冠羽が目立ちます。眼の上から頭の後ろまで黒い帯があります。飛翔中は首を縮めて飛行し、脚は後方に長く伸ばしています。はばたきゆっくりしています。コイ、フナ、アメリカザリガニ、カエルなどの水辺の小動物を捕らえて食べます。

仲ノ池でも北西のアシの茂みに飛来し、餌を狙っています。しわがれた太く濁った声でグワァーと鳴きます。



⑥ ダイサギ コウノトリ目サギ科

全身が白色の大型のサギで、アオサギとほぼ同じか少し小さい程度で全長89cmほどあります。脚も首も長く背の高い鳥で、深みのところも平気で歩きます。夏羽のときはくちばしは黒くて、目先は緑青色で、胸と背に長い飾羽をつけますが、冬羽ではくちばしが黄色で目先も黄色っぽく、飾羽はありません。芦屋では平成7(1995)年の阪神大震災以降現れ

るようになりましたが、すべて冬期の冬羽の時期です。仲ノ池にも時々姿を見せています。池の魚を狙ってきているのでしょう。



⑦ コサギ コウノトリ目サギ科

全長61cm、翼長98cm位の小型の白いサギです。芦屋川ではよく見られるおなじみの白鷺です。くちばし、脚は黒色で脚指が黄色なのが特徴です。生殖時期には頭上に長い白色の飾羽2枚が生じ、背の飾羽は上に巻きあがっています。ちなみに「白鷺」という和名のサギはいません。白いサギは、大きいものからダイサギ(大)、チュウサギ(中)、コサギ(小)と分けられているからです。チュウサギ

は芦屋では見られません。小型なのと脚指が黄色なのが見わけのポイントなので覚えておきましょう。仲ノ池にも時々現れています。



⑧ カワセミ ブッポウソウ目カワセミ科

頭から背のコバルトとブルーと腹部のオレンジ色が光が当たると宝石のように輝くので「空飛ぶ宝石」といわれる美しい鳥です。全長約17cm、小さい体の割りにくちばしが太くて大きいのが目立ちます。ツイーと鳴きながら水面上を低く、直線的に飛び、羽ばたきはとても早いです。水面に突き出た枝などに止まり、水中を泳ぐ魚に狙いを定めて一気に水中に飛び込み、大きなくちばしで魚を捕らえ

ます。とった魚は枝や石に叩きつけたあと頭から丸のみにします。仲ノ池ではここ3年ほど池周辺に居ついて、注意すれば常時見ることができます。



前面



後面

⑨ セグロセキレイ スズメ目セキレイ科

⑩ ハクセキレイ スズメ目セキレイ科

いずれも黒色の背、白い腹部と長い尾を持ったよく似た鳥ですので、区別点を比較しながらまとめましょう。まずセグロセキレイですが、頭部から背面、胸にかけて黒色で、頭から眼の上に続いた白色の眉斑がよく目立ちます。下面は白色。深い波状飛行をし、着陸時には特に激しく尾を振ります。一方ハクセキレイは全



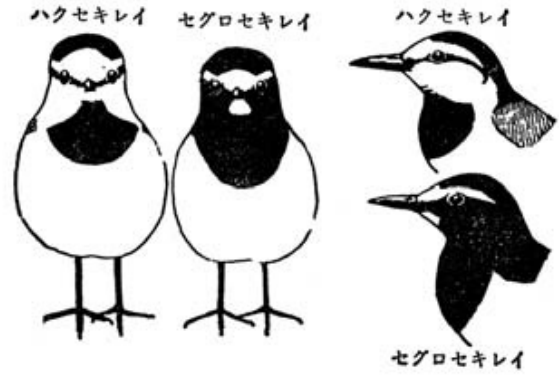
セグロセキレイ



ハクセキレイ

体としては白っぽい感じで、顔は丸くて白いですが、中央過眼線(眼のところを通る線模様)は黒くてよく目立ちます。鳴き声(地鳴き)は、セグロセキレイが

ジジッ、ジジッと低く濁った声に対し、ハクセキレイはチチッ、チチッとやや澄んだ声で鳴きます。どちらも尾が長いので大きく見えますが、スズメ大の21cmほどです。両者とも仲ノ池では池畔付近を歩いている姿や鳴き声に時折出会います。（見わけ方の比較図も参照してください）



セキレイの比較図
日本鳥類保護連盟 鳥類図鑑より

C. 仲ノ池のまわりの林に見られる野鳥

仲ノ池は、周囲が緑化公園としてよく整備され、人工的にですが立派な林が形成され、野鳥たちの憩いの場として豊か

な環境が出来上がっています。そのためここを訪れる野鳥たちも多く、その一部を紹介しておきましょう。

① シジュウカラ スズメ目シジュウカラ科

スズメよりちょっと小さいですが、尾がいくぶん長い鳥です。頭とのどが黒く、ほおは大きくて白色が目立ちます。背面は灰白色、腹は白く、のどから続く黒帯はネクタイのように中央に縦になっています。この黒帯はオスの方が太いです。「ツツピーツツピー・ツンピンツツピン」「ジュクジュクジュク」などと鳴き

ます。冬期にはしばしばエナガ、メジロなどと混成群を作り、樹間を移動し小さな昆虫、クモや木の実を食べます。仲ノ池でもよく見かける鳥です。



② ヤマガラ スズメ目シジュウカラ科

スズメ大の茶色っぽい鳥で、シジュウカラより尾が短くかなり太った感じに見えます。頭の上と喉が黒く、胸から腹にかけての下面は茶色で、額と眼の下の部分は褐色、背と翼は灰色です。鳴き声はシジュウカラよりテンポの遅い鼻声で「ツーツーピー、ツーツーピー」と間延びした感じで鳴きます。地鳴きも鼻声で「ニーニー、ピーピー」とやはり遅いテンポで鳴きます。枝先にぶら下がったり、

両足で餌を押しさえて食べるなど、軽快な動作をするためか、京都の八坂神社ではおみくじ引きに使われたりしています。



③ エナガ スズメ目エナガ科

スズメより小さく、長い尾と丸い体の小さな鳥です。尾が長くひしゃくの柄に似ていることからこの名があります。顔は白く、濃紫褐色の眉斑は肩から背に続いています。背面は濃褐色とぶどう色の混合に見えます。下面全体は白色。飛び立つとき尾を広げると外側の白色の部分が目立ちます。「チーチー・ジュリジュ

リ」と鳴き、枝から枝へ移動しながらアブラムシやカイガラムシなどや草木の種子を食べます。仲ノ池でも特に冬期によく見られ、シジュウカラやヤマガラと混成群を作って移動している姿が見られます。



④ メジロ スズメ目メジロ科

その名のように眼のまわりが白い黄緑色の小さな鳥です。背面は暗緑色で翼、尾は暗緑褐色、下面はのどと下尾筒（お尻の丸くなったところ）が黄色く、胸、脇は淡紫褐色で、全体として尾が太って見えます。地鳴きは高い声で「チーチー」で、さえずりは「チーチュルチーチュルチーチュル」、驚いたとき

は「キルルルル…」という強い警戒音を出します。甘い物が好きで花の蜜、果実の汁、樹液などを吸います。冬期はカラ類と混成群を作ることが多く、仲ノ池でも年間にわたってよく見かける鳥です。



⑤ カワラヒワ スズメ目アトリ科

スズメとほぼ同じ大きさの褐色がかった緑色の鳥で、翼に大きな黄色の紋があります。くちばしは肉色で太く短く、尾は凹型にくびれ黄斑があるので、飛ぶときに黄色が目立ちます。飛びながら「キリキリコロコロ」と鳴き、高いこずえに止まって「ビーン、キリキリ、コロ、ビューン、ビーン、ピッピッ」と鳴く

ことも多いです。垂直に近い姿勢で枝に止まります。芦屋市全体に分布していますが、仲ノ池付近では西北側のニセアカシアの枝などに止まって鳴いている姿をよく見かけます。



⑥ コゲラ キツツキ目キツツキ科

ほぼスズメ大のもっとも小さなキツツキです。背には褐色と白の横縞があります。頭上から後頭部は灰褐色、体と翼の上面は黒褐色で、背と翼には白い横斑が

あります。尾はキツツキ科の鳥の特徴としてくさび形



です。体の下面は汚白色で脇に褐色縦斑があります。鳴き声は「ギイッー、ギイッー」、木をつつく「タタタタ…」という音（ドラミングといいますが）も聞くこ

⑦ ヒヨドリ スズメ目ヒヨドリ科

市内でも多く見られるおなじみの鳥です。全身灰褐色の中型の鳥で、眼の後ろは茶色です。尾は長めなので細長く見えます。飛ぶ時ときは波状の飛び方をします。鳴き声はピイッ ピイッ ヒイッ ピイーヨ ピイーヨと大きな声で鳴きます。ピョイヨ ピーヨピークリリ ピー

とができます。仲ノ池では緑地公園のマツやニセアカシアの木の幹に止まっているのをよく見かけます。



チュルリなどとも鳴きます。もともと里山の鳥でしたが、都市に適応し都市鳥に変身しました。仲ノ池公園でも一番多く見られ、四季を通じて盛んに鳴き声が聞かれます。

⑧ キレンジャク スズメ目レンジャク科

体は太った感じがあり、尾は短く、頭に冠羽があります。体はぶどう褐色で、ひたいと顔は赤みがあります。過眼線は黒く、冠羽の下で終わります。のどは黒くくちばしの付け根に白斑があります。腰から下尾筒は青灰色で、尾は黒く先端に黄色の横帯があります。冬鳥として渡来、集団で渡りをする途中に立ち寄ることが多いようです。仲ノ池緑地でも平成

15(2003)年3月、100羽を越す群れが、ニセアカシアの枝に止まって鳴き騒いでいるのを見たことがあります。鳴き声はチリチリチリと細く鳴きます。



保育社検索入門
野鳥の図鑑 陸の鳥②より

⑨ ジョウビタキ スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科

冬鳥として訪れる代表的な鳥で、芦屋でもよく見かけます。スズメ大で、オスとメスで体の色彩は異なりますが、いずれも翼に大きな白斑があり、紋付き鳥とも呼ばれています。オスは頭部が灰白色、顔、のどは黒色、胸、腹、腰と外側尾羽は橙色です。黒褐色の翼には白斑があり、そのコントラストが美しくよく目立ちます。メスは全体が灰褐色だが下腹部と下

尾筒、外側尾羽は橙色で、翼の白斑はメスもよく目立ちます。枝などに止まって「ヒッヒッ」「カッカッ」と鳴きます。鳴きながら尾を小刻みに振り、頭をぴよこっと下げる動作をします。仲ノ池でも冬期にはよく見かけます。



⑩ ツグミ スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科

秋、シベリアから大集団の群れで日本に訪れる代表的な冬鳥で、ムクドリ大の茶褐色の鳥です。頭部は黒色で、白い眉斑、白いのど、あごに暗褐色の縦縞の縦列があります。腹面に黒い胸の帯や脇にぼたぼた斑があります。地上性で、二足跳びで、大幅に跳ねて移動します。シベリアで繁殖したツグミは10月頃日本に大量に飛来し、はじめは山地で生活し、やがて人里に下りてきます。飛来してからは群れは小規模なものになり、単独生

活を多くするようになりま
す。明るいと
ころを好み、
地上で昆虫や
ミミズ、木の
実などの餌を
漁ります。鳴
き声は「ケエッ
、ケエッ」と
か「クアッ、ク
アッ」と鳴き
ます。カスミ
網猟がまだ許
可されていた
頃は、数万羽
というツグミ
が捕獲され、
焼き鳥の材料
にされたそう
です。



⑪ シロハラ スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科

ツグミの仲間、大きさもツグミとほぼ同じで、ツグミが明るい所を好むのに比べ、この鳥は暗い林内などを好みます。上面は茶褐色で、下面は白く脇は淡褐色なのでこの名があります。尾の両端に白色の斑紋があって、飛ぶときによく目立ちます。雌雄同色ですが、メスの方がやや薄く、飛び立つとき「キョキョキョ」と大きい警戒の声を出すのが特徴です。

普通は「ク
ワッ」「シー」
と鳴きます。
この鳥もシベ
リアから冬鳥
として渡来し、
暗い林内でガ
の幼虫やミミ
ズなどを食べ
て生活します。
仲ノ池の林に
も冬期に飛来
し、春ごろま
で姿が見られ
ます。



ここにあげた野鳥は、仲ノ池周辺で見られるもののうちで、比較的普通に見られるもののみです。年間にわたってはもっとたくさんのものが見られます。例えば、ツバメ、ムクドリ、スズメ、ウグイス、キジバト、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなどは確認していますが、紙数の都合で省きました。みなさんで、今後新しい種類などを見つけられた場合

は、鳥類図鑑で調べてまたご連絡ください。また、トンボ類以外にも昆虫類などはたくさん見られるのですが今回は割愛しました。またの機会にまとめたいと思います。これをきっかけにみなさんが仲ノ池の自然に興味と関心を持ち、仲ノ池を昔のように豊かな、多様性のある自然の多い池にしていきたいものですね。